

大学院看護学研究科 博士後期課程		授業 科目	比較医療文化特論 Comparative studies on medical culture			担当 教員	紙村 徹(専任) 藤代 節(専任) 蘭由岐子(専任)
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	共通基盤科目	授業形態	ゼミ
選択必修	選択	時間数	30時間			使用教室	担当者研究室
授業の目的及びねらい							
オムニバス形式にて、各分野を専門のフィールドとする担当者が、広くアジア・太平洋地域の医療文化について講じ、比較研究することを目的とする。							
授業のキーワード							
医療文化、文化比較、アジア・太平洋地域、社会制度、慣習、世界観、言語文化							
講義回数	授業内容及び計画						
(予定) 第1～5回	<p>病は人間の避け得ない経験のひとつであり、それは固有の文化の脈絡にある。特に生と死を含むその経験とその対処の様相を「文化のシステムとしての医療」と捉え、各文化領域における医療に関する諸装置(政策、社会制度、慣習、世界観、言語文化等)の機能の把握と比較検討を主題とする。日本を含むアジア・太平洋地域を中心に扱う。3名の担当者が各5回担当する。担当順については、年度初頭にあらためて通知する。</p> <p>紙村 徹：主に東南アジア・南太平洋圏の伝統的社会における心身形成・健康維持増進という目的意識の中で、血液・精液・母乳などの身体実体をも含めた広義の食物摂取がいかん位置づけられているか、すなわち身体内部と環境という外部との交流・循環がいかんして果たされていると捉えられているのかを、それらが伝統的社会の伝承してきた世界観・身体観の中に占める固有の位置づけの文脈から読み解いていく。なお、英語テキストを使用する。</p>						
第6～10回	<p>藤代 節：主に北アジア・シベリアの先住民の言語文化(英雄叙事詩等の口承文芸、諺や迷信等の民間伝承、他)にみられる身心状況、食物摂取、健康にまつわる諸現象描写を医療文化と捉え、紹介・解説する。さらにこの地域において大きな文化背景をなすロシア文化と比較し、文化接触の観点も含め、医療文化を多角的に講じる。</p>						
第11～15回	<p>蘭 由岐子：医療政策、医療組織、社会関係(医師-患者関係、家族・親族関係を含む)等からなる日本の医療文化システムのなかで病気を患うことの意味を、ハンセン病やHIV/AIDSなどのスティグマの強い病気に焦点をあてることによりあきらかにする。また、日本のハンセン病療養所内で使用された「用語」から療養所文化のありようをさぐる。</p>						
テキスト	特に指定しないが、英語文献やその他欧文文献をも資料として用いる。						
参考文献	授業時に必要に応じて紹介する。						
成績評価の方法	レポートもしくは平常点による。詳細については初回にあらためて通知する。						
教員から学生へのメッセージ	レポートもしくは平常点による評価を行う。各担当者による個別の評価をもちより、担当者全員の合議により総合的に評価する。各教員担当部分の評価配点は原則的に等価である(各100/3パーセント)。なお、詳細については各教員担当回の初回にあらためて通知する。						